

KJQ.PAPER

〈心の基礎〉リサーチ

〈心の基礎〉教育を学ぶ会メンバー

会長 菅野 純 綿井雅康 加藤陽子 藤井 靖 桂川泰典 原口和博 中村 有

第 5 号

2015 March

発行人 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 事務局長 萩地一夫

事務局 株式会社実務教育出版 ☎163-8671 東京都新宿区新宿1-1-12 TEL 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

研究会レポート

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第3回研究会



「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」では、毎年夏に研究会を開催し、『KJQ マトリックス』の可能性、活用のしかたなどを学びあっています。

「第3回研究会」では、2部に分けてケース検討会を行い、『KJQ』で得られるさまざまなデータをどう読み解くか、読み取った内容をどう指導に生かすかについて、参加者同士でディスカッションしながら検討しました。

データを検討する中でどんな児童・生徒の姿が浮かび上がってきたのか——研究会の様子をレポートします。



第3回 プログラム

2014年8月21日

実務教育出版セミナールーム

司会・進行／十文字学園女子大学教授 綿井雅康

13:00～13:15 (15分)

●開会のあいさつ 〈心の基礎〉教育とKJQの可能性

〈心の基礎〉教育を学ぶ会会長 早稲田大学教授 菅野 純

13:15～14:20 (65分)

●第1部 ガイダンス KJQ結果資料を理解する

岡山大学准教授 桂川泰典

14:30～15:40 (70分)

●第2部 実践報告からのケース検討（中学校のケース報告から）

[ケース報告者] 東洋英和女学院中学部教諭 上村由紀

[ケース検討者] 十文字学園女子大学准教授 加藤陽子

〈心の基礎〉教育を学ぶ会講師 原口和博

15:50～16:30 (40分)

●講演 児童生徒の内面を見る目を養う

菅野 純

※所属は研究会当時のもの

「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」は、『KJQマトリックス』に携わる研究者と教育の現場にいらっしゃる先生方との研究会です。子どもたちが学校生活の中で伸び伸びと学習し、人間関係を築きあげ、社会性を確立するための根元となる〈心の基礎〉を共に学び合うことを目的とし、継続的な研究会、会報の発行を行っています。志のある方であれば、どなたでも参加可能です。

第1部 ガイダンス KJQ 結果資料を理解する

第1部では、データの見方のポイントを学んだ後、グループディスカッションをしながら、『KJQ』で得られる結果資料の読み取り方を実践的に体験しました。

最初に、岡山大学准教授・桂川泰典先生から、KJQの基本知識に関するガイダンスがありました。

* * *

「友だち関係を楽しめている？」「家庭はやすらぎの場になっている？」「親や教師の愛情を感じている？」「社会的能力は年齢相応か？」……など、先生

方は子どもと接する中でいろいろな悩みや疑問を感じていると思います。

面談で一人ひとりに尋ねて問題を解決する、というのも可能です。しかし、個別の面談では時間がかかりすぎ、迅速な対応が必要な場面では必ずしもベストといえないこともあります。

そんなときに役立つのが、『KJQ マトリックス』です。

『KJQ』では、「子どもが家庭、教師、友人関係から愛情やエネルギーを補給できているか？」「子どもが社会的能力をどの程度身につけているか？」を、児童生徒一

人ひとりに身近な言葉で対話するように問い合わせ、確認します。10分程度の短い時間で、子どもとクラスをとらえる指標となる、豊富なデータを得ることができるのです。

* * *

桂川先生のガイダンスの後、「クラス」と「個人」のデータの読み取りワークを、グループディスカッション形式で行いました。

「個人」のデータの読み取りワークでは、中学1年生カオリさんの事例を取り上げ、カオリさんの「教師用シート」、カオリさんの「回答状況シート」、カオリさんのプロフィール、「KJQ マトリックス確認ポイント（個人）」を参照しながら、下に掲げたような「ワーク」に各自で取り組んでもらい、その後、グループディスカッションを行いました（資料は3ページに掲載）。

『KJQ』の結果データから、「カオリさんはどんな生徒」で「どのような働きかけが必要」と読み取れるのでしょうか？



『KJQ マトリックス』読み取りワーク（抜粋）

- Q1** カオリさんの「こころのエネルギー」、「社会生活の技術」、「タイプ」を確認。どのような特徴がある？
- Q2** 「こころのエネルギー」3特性、「社会生活の技術」6特性を確認。どのような特徴がある？
- Q3** 臨床尺度を確認。どのような特徴がある？
- Q4** 回答状況シートに気になる点はないか？

〈カオリさんのプロフィール〉

【家族構成】

4人きょうだいの末っ子：父（年齢不明）、母（50歳看護師）、長男（21歳）、次男（高2）、長女（高1）

【学校生活·家庭生活】

- ・非常に良好で模範となる生徒（担任談）
 - ・言葉遣いが丁寧。気遣いのできるやさしい生徒
 - ・母はよくほめてくれるようだ（家庭訪問時確認）

【周囲の認識】

- 担任**（ベテラン男性教諭）：好印象。よく気遣い

ができる模範生徒。少し神経質すぎるところもあるが、気になるほどでもない。問題のあらわれがない中、『KJQ』の結果に驚く。

- 母親：小さなときから家族で空手をしていた。お手伝いをよくしてくれてとても助かる。よくほめて育てているつもり。「我が家の希望の星」。

〈カオリさんの 教師用シート〉

KJQ マトリックス 教師用		半年・総・番	名前	性別	受付No.	学級No.	
		1年 総 番		女			
		(生徒のタイプ)	意欲タイプ	遊びタイプ	意差しタイプ	内向タイプ	
この ころの エントリ ギー	B 安心感	1年 ★	9	3	4	5	
	C 楽しい体験	1年 ★	低	ふ	島		
	D 認められる体験	1年 ★	い	う	じ		
社会生活の技術	F 自分の気持ちを伝える技術	1年 ★	1	9	3	4	
	G 自分をコントロールする技術	1年 ★	低	ふ	島		
	H 状況を正しく判断する技術	1年 ★	い	う	じ		
問題を解決する技術	I 人をよく見ていく技術	1年 ★	1	9	3	4	
	J 人をいたわり技術	1年 ★	い	う	じ		
	K 人をいたわり技術	1年 ★	1	9	3	4	
臨床尺度		【★は要注意】					
L「学校の中に自分の気持ちを話せる友だちがいる」 生徒の回答：いいえ		要注意 ★					
M「家での食事は美味しい」 生徒の回答：いいえ		要注意 ★					
N「クラスについて自分の居場所がないように感じた」 生徒の回答：はい		要注意 ★					
O「今のクラスは、いい感じ」 生徒の回答：いいえ		要注意 ★					
P「休み時間や授業中に、友だちに相手にされない」 生徒の回答：いいえ		要注意					
Q「誰なかがてあって話をきくんだことある」 生徒の回答：はい		要注意 ★					
生徒が困っている							
<p>①自分で判断し行動する力に優れています。</p> <p>②友人と集まるときは中心人物になります。</p> <p>③気後れせずに友人たちと接する力があります。</p> <p>④規則正しい生活を維持することができます。</p> <p>⑤人のためにできる限りの努力をします。</p>							

〈カオリさんご回答状況シート〉

KJQ の見方のコツ!

(桂川先生の資料より)

マトリックスシートの見方（臨床尺度）

- 臨床尺度（6項目） = 1項目であってもチェックがつけば教育上見過ごせない項目

→ チェックをつけた背後にある思いを確認

難 度	「学校の中に自分の気持ちを 語れる友だちがいる」	いいえ	「家の食事は楽しみ」	いいえ
		△△△	△△△	△△△
難 度	「クラスにても自分の居場所が ないよう感じる」	いい	「今のクラスは、いて楽しい」	いいえ
		△△△	△△△	△△△
難 度	「休み時間や授業中に、友だちに 相手にされない」	はい	「嫌なことがあって学校を 休んだことがある」	はい
		△△△△△	△△△△△	△△△△△

KJQマトリックス確認ボット（個人）



- ・「気になる子」「意外な子」発見
 - ・「心・社会」の得点と Δ を確認
 - ・仲の良い子の位置を確認
 - ・「心」3特性、「社会」6特性の分布を確認(教師用シート)
→ アンバランスはないか?
 - ・臨床尺度を確認

→ 普段の様子と照らし合わせながら
どんな気持ちで回答したかを考察

K-10マトリックル確認本 イント（個人）



- 「気になる子」「理解に悩む子」の問題がどの部分に現れているか
 - 回答に「違和感」はないか
→ 教師には見せない姿、表に出せない、無理をしている、つらっている、自己評価が厳しい／甘い
 - 回答状況シートを確認
→ 分野毎に一問ずつ語りかけてみることで、子どもの認識（心の世界）を確認
 - 気になる9特性の素点を確認

グループディスカッションは4～5人が1グループになって約20分間行われました。活発な話し合いがなされた後、グループの代表者に話し合ったことを発表していただきました。どのグループも、カオリさんが「自己表現がうまくできないこと」「何か不全感を抱えているのではないか」という見立てをデータから読み取っていました（右の囲み参照）。

その後、桂川先生による、まとめのガイダンスがありました。

* * *



では、実際、カオリさんにどう対応したのかをお話します。

養護教諭が面談したところ、カオリさんは「お母さんはいつもがんばっているから、相談できない」と、突然泣き出したそうです。実はカオリさんの家庭は、父親は重い病気、長男は引きこもり、次男は非行傾向と、かなりの緊張状態にあるとわかりました。自己表現が苦手なカオリさんは、「自分ががんばらないとお母さんがかわいそう」と思いつめ、自らを弱音が吐けない状況に追い込んでいたのです。

担任や母親から見ると「模範的」なカオリさんですが、『KJQ』では「息切れタイプ群」で、「安心感」が極端に低いという結果でした。また、「臨床尺度」の6項目のうち5つが要注意で、危機的状況にあると読み取れます。『KJQ』によって、カオリさんのつらさ、厳しい状況が明らかになったといえます。

早速、先生方は『KJQ』の結果を共有して対応をしました。「安心感」が著しく低いことから、何かをやってできたことをほめるだけではなく、「ただいること」「存在を認める」かわりを丁寧に続けました。少しずつ「こころのエネルギー」が充填され、カオリさんは本来の力を発揮できるようになりました。

このように、教師間で子ども像を共通理解できることは、『KJQ』活用のよさの1つです。『KJQ』を活用して教師同士が共通理解をもつことは、指導の際に大きな力として役立つと思います。

グループワークの結果（抜粋）

Q1 「息切れタイプ」群に属している。

Q2 「こころのエネルギー」3特性がアンバランス、「安心感」が低く、「認められる体験」は高い。「認められる体験」が高いのは、大人の評価を気にしたり、認められようとする気持ちが強いことのあらわれではないか。「社会生活の技術」6特性はアンバランス。「状況を正しく判断する技術」は高いが、「自分の気持ちを伝える技術」「人とうまくやつていく技術」はふつう。周りのことが必要以上に見えすぎていたり、自分を抑えているのではないか。

Q3 臨床尺度は5つが要注意。回答状況シートを見ると、友だちとほどほどにつきあえるような回答が多いのに、臨床尺度にはクラスに居場所がないとある。自己表現できていない、空虚な感じ？ 家の食事も楽しみでないので、友だちか家庭かで困難な状況があったのか。

Q4 「1 はい」と「4 いいえ」に回答が大きくぶれている。細かく見ていくと、家庭で何をすべきかわかり、行動もできているが、情緒的なふれあいは少ないのではないか。友だち項目は全体に良好だが、自分の気持ちが話せていないのではないか。

★菅野純先生のコメント★



事例のカオリさんは、皆さんの見知らぬ子どもです。しかし、『KJQ』によって心が見えてきて、子どもの輪郭や人物像がどんどんはっきりしてくることがワークで実体験できたのではないかと思います。

たとえば乱暴な子がいたとき、その行動だけを見ると、「やめさせなきゃ」「乱暴ばかりして」と苛立ちが募るでしょう。しかし『KJQ』を手がかりに「なぜそのような行動をとるのか」と子どもの背景が理解できるようになれば、「今の問題を改善するにはどうしたらよいのか」というもっとやわらかく、優しい気持ちで子どもに寄り添えるようになります。

自分の心を言語化するのは難しいものです。特に思春期の子どもにとってはかなり難しいでしょう。でも、心がわからないとその子にあった対応はできません。そこで『KJQ』を活用し、言うにいえない、子どもの心の奥底にあるものや、子どもの言葉にならない〈ことば〉に焦点を当てて言語化するのです。『KJQ』はそんな可能性を秘めていることも知ってほしいと思います。

第2部 実践報告からのケース検討

第2部では、中学校の個人ケースを事例に、「KJQ の結果から考えられるクラス・生徒の特徴、

気になるところ」と「指導支援の方針・具体案」についてグループワークを行いました。

ワークの結果を発表しあった後、ケース検討者による考察が行われました。

ケース報告者

東洋英和女学院中学部教諭
上村由紀先生

ケース検討者

十文字学園女子大学准教授 加藤陽子先生
〈心の基礎〉教育を学ぶ会講師 原口和博先生

●上村先生の報告●

1 クラスの紹介

今回取り上げるAさんとBさんは、中学1年の普通クラス所属の生徒です。AさんとBさんは、アニメが好きという共通点をきっかけに親しくなり、友だち関係にあります。2人の担任は、教師歴17年目の40代女性教諭です。

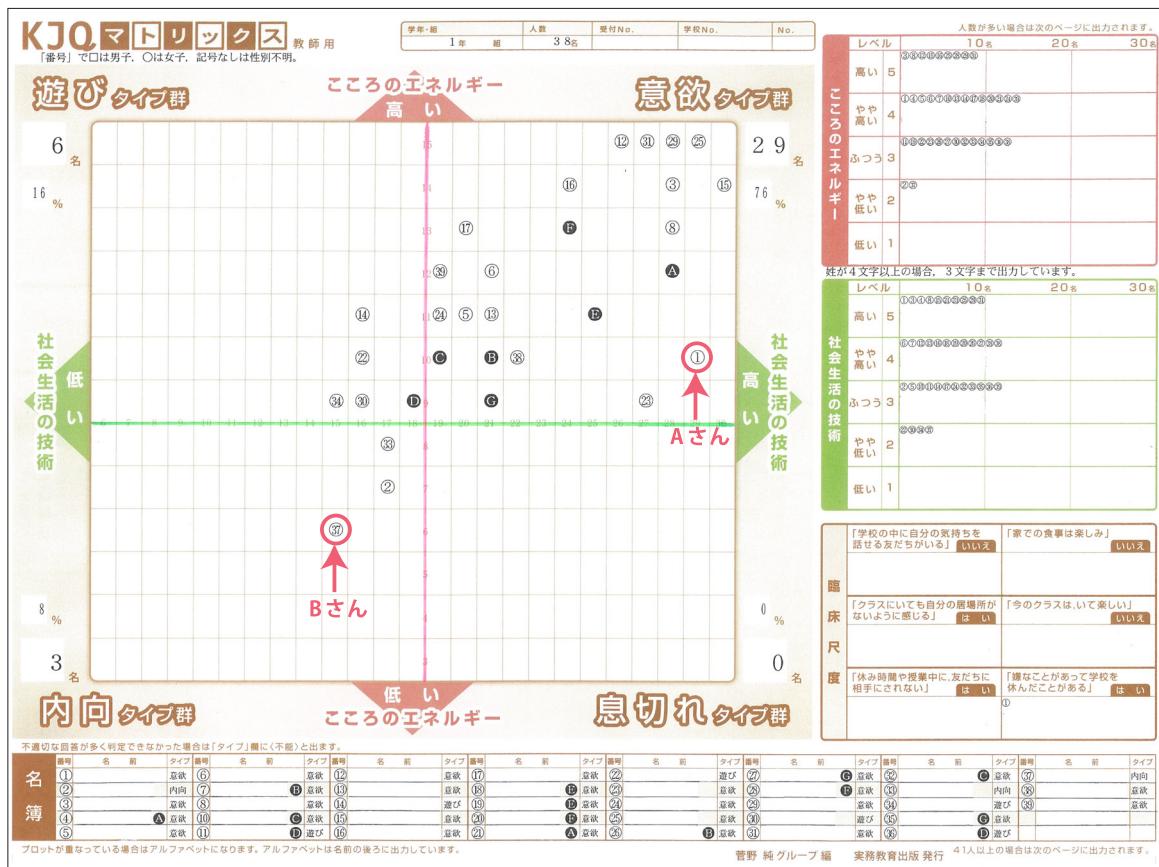
Aさん、Bさんのクラスは小学部からの進学者 16 名と、中学部からの入学者 23 名の計 39 名で構成されています。2人は共に中学部からの入学者です。クラスには真面目で意欲的な生徒が多く、欠席・遅刻・早退や保健室利用が目立つ生徒はいません。



学年全体の傾向なのですが、中学部からの入学者は厳しい入学試験をパスしてきた生徒であり、成績も最上位から補欠で入学したギリギリの者までさまざまです。一部、入学後に燃え尽き症候群のようになって勉強に手が付かない生徒も見られます。中学での新生活に期待する一方、小学部からの進学者に溶け込めるのか心配する生徒も見受けられます。

また、小学部からの進学者は学力的に幅があり、最上位の者もいれば低調な者もいるという状況です。中学からの入学者と仲良くしたいという気持ちをもつ一方、勉強面についていけるか心配している子も多いようです。

『KJQ』は、例年4月の1週目に実施し、5月の面談時に活用しています。



2 個人ケース Aさんについて

①現状

Aさんは、30代の父・母と小学生の弟の4人家族。共稼ぎの両親は非常に多忙で、放課後は母親が迎えに来るまで、塾の自習室で過ごしているとのことです。母親は保護者会などにあまり参加していません。

Aさんの成績は下位。宿題や書類などの提出が遅く、呼び出しに応じないこともよく見られます。動作が乱暴で、身の回りの整頓が苦手です。運動部に所属していますが、あまり参加していません。友人関係は良好で、趣味のアニメを通じて数人と仲良くしています。漫画や携帯電話など違反物の持ち込みで、反省文も数回書きました。また、入学直後に習っている武道の型を皆の前で突然披露し、騒ぎとなつたこともあります。入学後に書類が提出されず、連絡したところ家庭では全く把握されていませんでした。本人・母親と面談を数回行い、「きちんと生活し、学習していく」と指導を続けています。

●加藤先生のケース検討●



上村先生の報告に「AさんとBさんは友人同士」とありました。Aさんは「意欲タイプ群」、Bさんは「内向タイプ群」でタイプの違う者同士です。2人は互いに足りない部分を補い合っているのかもしれません。『KJQ』では、クラス内の人間関係をマトリックス上の位置に照らし合わせて検討することも可能です。

「現状とのギャップを感じる」と報告にありました。子どもの自己理解が未熟な場合、現状と『KJQ』の結果にギャップが生じることがあります。Aさんにも当てはまりそうです。

両親とも忙しく、Aさんにかかる時間があまりとれない家庭と思われますので、丁寧なかかわりや声かけを通して、学校がAさんの内面の成長の場として機能してほしいと思います。

②ご検討いただきたいこと

日々指導に苦労している生徒の1人ですが、『KJQ』では「意欲タイプ群」で、現状とのギャップを感じています。今後、学校やクラスに溶け込んで、落ち着いて学習できるようにするためにには、どのようなアプローチをしていけばよいのでしょうか。また、家庭とのかかわりにも心配を感じています。

〈Aさんの教師用シート〉

KJQ 教師用					学年・級・年 1年 相 生徒のタイプ 意欲タイプ 遊びタイプ 感情タイプ 内向タイプ	名前 性別 受付No. 女	学校No.
1 安心感	1 C 楽しい体験	2 D 認められる体験	3 低 少 う	4 中 少 う	5 高 多 い	F G H I J K	1 2 3 4 5
臨床尺度					感情抑制する技術		
L「学校の中に自分の気持ちを話せる友だちがいる」 M「家の食事は美味しい」 N「クラスにおいても自分の居場所がないように感じる」 O「多くのクラスは、いて楽しい」 P「休み時間や授業中に、友だちに相手にされない」 Q「誰なごがって学校を休んだことがある」					感情を抑制する力を備えています。 ①友人との自然に接する技能を備えています。 ②言動は周囲から注目を集めています。 ③表現の方法を工夫する能力が優れています。		

●原口先生のケース検討●



ほとんどの質問に「はい」「ややはい」としたAさんの回答で気になったのが、「ややいいえ」と回答した2項目です。「43 係や委員に推薦されることが多い」からは「友人に認められなくてさみしいという思いがあるのかな」、「22 新しい知識や考え方を知ることに興味がある」からは「何かに挫折感を抱いていて希望をなくしているのではないか」と感じました。Aさんは「意欲タイプ群」ですが内面に悩みを抱え苦しんでいるように感じます。そこで学校としてAさんのプラスの面にアプローチして、エネルギーを高めていくとよいと思います。

両親は多忙なようですが、Aさんに対して「優しい言葉かけ」や「メモでのメッセージ」など、無理のない範囲でかかわりを増やすようにすることもよい効果を得られると思います。家庭と学校が協力し、相乗効果でAさんのこころのエネルギーを補填したいと考えます。

3 個人ケース Bさんについて

①現状

Bさんは、40代の父・母、姉の4人家族。父は多忙ですが、病気がちな母に代わり学校活動に熱心にかかわっています。姉妹仲は良く、姉に何でも相談しているようです。母親は自身の病気をBさんにだけ詳しく話していない状況です。

Bさんの成績は下位。整理整頓が苦手で、忘れ物も目立ちます。体調不良の遅刻も多く、学校で落ち込んで見えるときもあります。友人との関係は良好ですが、時折的外れな発言をするのを一部の生徒にからかわれるときがあります。

入学後は順調に過ごしていましたが、何度も注意しても提出物が出ないことが続きました。家庭にたびたび連絡して事情も伺いましたが、本人に自覚がないため継続指導しています。集団生活の中で目立つことはありませんが、無気力な様子が気になります。

●加藤先生のケース検討●

「マトリックスシート」や上村先生の報告にもあるように、「意欲タイプ群」の生徒が約8割いるクラスです。「内向タイプ群」のBさんは疎外感を感じていそうです。全体的な指導とは別に、個別対応が不可欠でしょう。

「認められる経験」や「問題を解決する技術」の低さから、Bさんの自信のなさが読み取れます。まずは、どんなに小さなことでもよいので、「うまくできた」「私にもできるんだ」と思える体験を積み重ねたいですね。そうすることで、自信が育まれ、意欲が高まっていくと考えられるからです。

そして、Bさん自身が「このままがんばればよいことがあるだろう」と思えるようなかかわりを続けていくことで、将来的にも意欲を落とさず、前向きに生活できるように変わっていけるのではないかと考えます。

②ご検討いただきたいこと

母親が通院・入院する状況には本人も慣れてきたようですが、ひどく落ち込んだり体調が悪くなったりして早退することもあり、指導上気がかりです。どのような点に気をつけて指導すべきでしょうか。

〈Bさんの教師用シート〉

KJQ マトリックス		学年・組・番	名前	性別	受付No.	学校No.
1年	組	番				
【生徒のタイプ】		意欲タイプ	遊びタイプ	思切れタイプ	内向タイプ	
A 安心感		1年	2	*	5	
C 楽しい体験		1年	低	*	島	
D 落ち込める体験		1年	い	う	い	
臨床尺度 (*は参考)						
①「学校の中に自分の気持ちを語せる友だちがいる」 生徒の回答：ややはい <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
②「家の食事は美味しい」 生徒の回答：はい <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
③「クラスにおいて自分の居場所がないように感じる」 生徒の回答：ややはい <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
④「今のクラスは、いて楽しい」 生徒の回答：ややはい <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
⑤「休み時間や授業中に、友だちに相手にされない」 生徒の回答：ややいいえ <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
⑥「誰なことがあって学校を休んだことがある」 生徒の回答：いいえ <input checked="" type="checkbox"/> ■注意 ■						
⑦強い責任感と意志の固さを備えています。 ⑧何があっても学校に違う心の強さがあります。 ⑨家族の存在が心の安定につながっています。 ⑩日常生活を健康的に送ることができます。 ⑪その場にふさわしい言動ができます。						

●原口先生のケース検討●

先生からの報告に「姉に何でも相談する」とありましたが、家庭では自分で考え対応する経験が少ないのでしょうか、「認められる体験」が低くなっています。そんなBさんには、クラスでできる係や役割を設定し、小さなことでも「できた」という体験と「クラスが認めてくれた」という機会を設けることで、エネルギーの補給ができると思います。

『KJQ』の結果から、Aさんと同じ「22 新しい知識や考え方を知ることに興味がある」に注目してみました。無気力な態度が気になるというBさんですが、「新しい知識を得たい」「変わりたい」という気持ちが感じられます。Bさんの回答の中で数少ない前向きな気持ちを、面談や指導の中で伸ばしていくとよい変化が期待できると思います。

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 第4回研究会 ご案内

2015年8月20日(木)に実務教育出版ビル(東京都新宿区新宿1-1-12)で開催予定です。

詳細は事務局までお気軽にお問い合わせください。

問合せ先／事務局 実務教育出版 担当：檜山 tel: 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

BOOK GUIDE

研究会のメンバーが学校の先生や生徒におススメしたい本を紹介するコーナーです。今回は賀屋祥子先生（小学校スクールカウンセラー）が紹介します。



保護者や先生に「すぐに怒る子なんです。どうすればいいですか?」と、よく訊かれます。感情を出すことによっても敏感な世になりました。一方、子どもたちの話を聞くと、感情の出し方をあまり知りません。私が「昔ケンカしたときには…」等と言おうものなら、「先生もケンカした?!」と驚き、そして安心したような目で見るのであります。経験を聞くことは、人が成長するときの厚みに大きく影響する、と私は思います。多くの知恵やヒントが、そこに潜んでいます。

この本がすてきなのは“怒ってはダメ”とどこにも書かれていないところです。さまざまな例えがユーモラスな絵と共に綴られています。出てくる子どもたちは、とにかくよく怒ります。ケンカや思ったことがうまくいかず、火山のように、サイのように。大人も怒ります。そして“きみならどうする?”と私たちは問い合わせられるのです。学級で、家庭で、「私たちならどうする?」と、大人も子どもと同じ目線で考えられる本です。



ぼくはおこってる

ブライアン・モーセズ 文
マイク・ゴードン 絵
たなかまや 訳
評論社刊

定価 1,296円（税込）
1999年5月発行

私のbeing

リレー
エッセイ
第5回



「こころのエネルギー」を補給する要素として「楽しい体験」がありますが、その一つとして「目的に何もしない」、つまり「being（ただ、いること）」はとても大事です。人は日頃「doing（何かをすること）」から成り立っていますが、それ以外の一見無駄に見える時間も、実は必要なものなのです。このコーナーでは、研究会のメンバーが日頃どのように「何もしないで」こころのエネルギーを注ぎ足しているのか、紹介してもらいます。第5回は、只今子育て奮闘中、浪速のメガネ女子、加藤陽子先生（十文字学園女子大学准教授）です。

私は、おそらくKJQのメンバーの中で最もbeingが苦手な人間だと思います。少しでも時間があつたら、惣菜のストックを作つておかなきや、講義準備を進めなきや…など、思いつくのはdoingばかり。ちっともbeingでいることができません。

そこで私は、あえてbeingをdoingすることにしています。意識的に“beingする”のです。たとえば、見知らぬ土地へ一人旅をする。あるいは、見知らぬ客と飲み屋で談笑する。その時、その場所では、私は「かと先生」や「鬼嫁（笑）」や「Kちゃんママ」ではなく、ただ「私でいる」ことができ、気が付ければdoingを忘れていただけます。

先生方の中にも、身を置く場所がたくさんあつたり、役割を複数もつたりと、なかなか「あるがまま」でいることができない方もいらっしゃるかもしれません。そんな時は、ぜひbeingをdoingしてみませんか。誰でもない「あるがままの私」に戻る瞬間。案外、お勧めですよ。

編集後記



3月は「別れの月」といいますが、次のステップへ飛翔する準備の月とも思えます。

小学生は背伸びして中学生のように振る舞い、大学生はいっぱいの社会人に変身したつもりになります。そういう君たちを応援していますから。

（事務局 萩地）

第6号は2015年8月発行予定です。